助成事業実施報告書

令和 5 年 4月 21 日

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人 SportsKidsStation

理事長　氏名 河合 恵子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

きずな子ども食堂

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度

昨年の 3 月に、より幅広い子育て支援の拠点を設けるべく、スポーツ・学習・プログラミング学習などが行える SORAPARK を京都府城陽市に設立致しました。こちらの施設で、主に小学生をターゲットに、原則として第 2・4 土曜日に食事の提供に加え、希望者には、学習支援やスポーツの体験活動も行える「きずな子ども食堂」を開設致しました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

子どもたちが「きずな子ども食堂」に参加することによって生産者提供の四季折々の野菜を使った栄養バランスのとれた食事を食べ大人数での『団らん』の楽しさを経験し社会とのつながりを感じられたことは、心身ともに有意義な成果であったと思います。当食堂の特色であるスポーツの体験活動やICT機器を取り入れた学習支援を行ったことにより異環境（学校も含む）、異年齢、異文化の子どもたちが交流を持ち子どもたちが助け合う姿も見られ、食事を通じた学びの場、コミュニケーションの場となったと思います。
貧困の連鎖を断つためにも、子どもたちが将来自立して生活できるだけの学力や知識を獲得していくことは必要だと感じます。今後も勉強が苦手、費用がなくて塾に通えないという子どもたちや温かいごはんをみんなで食べたいという子どもたちの為にも継続的に学習支援や温かいごはんを提供していきます。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

ご飯を食べた後に、スタッフに金銭や進学の問題、離婚やいじめの悩みをお話しされる保護者もおられました。お話をされることで心が楽になられ、来られた時よりもスッキリされた表情でお帰りになられることも見受けられました。その一方で、仕事の都合で送迎ができない、移動手段がないとのことで来られなくなるケースもありました。きずな子ども食堂として今後も多くの方に『やすらげる場所』をご提供していきたいと思っておりますので、最寄りの駅までの送迎なども検討しております。
尚、より深刻な問題を抱えられている方へは、行政や弁護士などといった専門家へのご紹介などがスムーズにできる環境づくりなどにも更なる強化が必要だと感じました。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください